

平成30年度 学校自己評価システムシート (県立川越女子高等学校)

目指す学校像	「学力の向上」と「人格の陶冶」を柱に組織的教育活動を展開して進学実績の向上を図るとともに、生徒が主体的に学ぶ「質の高い授業」の創造に全力で取り組む学校
--------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえ評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	27名
	事務局(教職員)	10名

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 《学力の向上》生徒の学習意欲(進路意識)を喚起し、自学自習力の定着に努め、学力の向上を図る。 《人格の陶冶》「品格のある、志の高い生徒」「自主・自律の精神に満ちた自立した生徒」を育成する。 《開かれた学校づくり》関係機関との連携を更に深め、学校情報の積極的な発信に努める。
------	--

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標				年 度 評 価 (2 月 7 日 現 在)			実 施 日 平 成 3 1 年 2 月 1 6 日	
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策	学 校 関 係 者 か ら の 意 見 ・ 要 望 ・ 評 価 等
1	■現状 ・2学期制、土曜授業等により授業時間確保に努めている。 ・授業相互参観や、先進校、予備校研修に行くなど教員が常に学ぶ姿勢をもっており、質の高い授業が展開されている。 ・進路指導部等による様々な取組により、生徒一人一人の進路意識の向上に努めている。 ・SSH事業や県の指定事業等を有効活用している。 ■課題 ・生徒自身の取組状況を改善する。 ・ワンランク上を目指す進路意識の啓発を行う。 ・引き続き新大学入試へ向けた具体的な対応を行う。 ・SSH、県指定の事業等を効果的に活用し、学校全体で事業を推進、実施する。	1 より計画的、自主的な学習とともに主体的な学びをさらに推進する。	①シラバスの配布、学習OT、学習室開室、読書指導などを通じて、生徒の自学自習力を高める学習環境の提供を行う。 ②定期考査や模試実施の前に目標設定、学習計画を作成させる。 ③教員授業相互参観や教科指導力向上セミナーへの参加を通じて、授業の質の向上をサポートする。	①②年間を通じて、生徒の自学自習力を高める学習環境の提供とサポートを行うことができたか。授業に関するアンケートで「学習への取組」の結果が昨年度(3.0~3.2)より向上したか。また、保護者アンケートで「家庭学習をよくやっている」の結果が昨年度(79.2%)より向上したか。 ③教員授業相互参観などの授業力向上のための取り組みのサポートができたか。	①②シラバスの配布、学習OT、学習室開室、読書活動の推進、出張講義の実施、各学年ともに学年通信の配布などにより学習意欲の喚起、自学自習力を高める学習環境の提供とサポートを行うことができた。授業に関するアンケートで「学習への取組」の結果が3.1~3.2で昨年度とほぼ同じ結果となった。保護者アンケートでは「家庭学習をよくやっている」の結果が75.2%で昨年度より4ポイント低下した。 ③夏季・冬季の教科指導力向上セミナーへの参加、教員相互授業参観、「未来「学び」公開研究授業を実施した。	A	■次年度への課題 ・一部の生徒は、計画的、自主的な学習スタイルが確立していない。 ・学習室開放に伴う教職員の負担軽減策の検討。 ・受験に必要としない教科・科目への関心をいかに持たせるか。 ■改善策 ・生徒が主体的・対等的に深く学ぶ授業改善をさらに進める。 ・生徒全員が計画的、自主的に学習に取り組めるように指導を継続していく。 ・教職員の負担軽減のための改善策を検討する。	■重点目標1「学力の向上」の各評価項目について、達成度の評価は適切である。 ■志を実現するための学習や進路指導の環境が良く整っている。 ■文系だけではなく理系に進学する生徒にとっても読書活動は大切なことである。 ■川越女子高校の教育課程(3学年での文理分け)は、良いと思う。将来のことを考えると早すぎる文理選択は危険である。 ■受験に必要なとしない教科・科目への関心を持たせることが今後の課題だろう。
		2 保護者と連携し、国公立大学、難関私立大学、医学部を目指す進路意識の啓発を継続する。	①保護者のための進路勉強会や大学見学などを通して、進路意識の啓発の一助とする。 ②進路LHR、ガイダンスなどで情報提供や面接指導などにより、生徒の高い進路意識の持続を図る。	①進路勉強会への参加家庭数の割合が各学年7割以上になったか。実施後の保護者の評価は良好であったか。 ②国公立大学、難関私立大学、医学部を希望する生徒数の割合が昨年度と同程度になったか。	①進路勉強会への参加者数は全ての回で300人(約80%)を超えた。実施後の保護者の評価は良好であった。 ②国公立大学第一希望者の割合:5.3%(6.1%)、難関私立大学、医学部第一希望者の割合:2.0%(3.0%) (()内は昨年度同期の割合)で昨年度と比較して減少した。	A	■次年度への課題 ・高い志をもたせることはできたが、その実現に向けた支援をどのように行っていくか。 ■改善策 学習時間の確保、個人面談を含めたきめ細かい指導を継続していく。学年通信の配布、出張講義への参加を働きかける。	
		3 SSH事業、県指定事業内容について、生徒へ積極的に情報提供を行う。	生徒への情報提供、説明会を段階的に行い、SSH行事等への積極的な参加を促す。	SSH事業への参加者数の延べ人数が昨年度(864名)より増加したか。	SSH事業への参加者数の延べ人数が918となり昨年度より増加した。文系、理系を問わず、科学への興味関心を高める、視野を広げる、幅広い教養を身に付ける良い機会となっている。	A	■次年度への課題 ・継続して参加者を募る必要がある。 ■改善策 学年通信などを使いながら参加を促す。	
2	■現状 ・多くの生徒が多様な活動に自主的かつ積極的に取り組み、充実した高校生活を送っている。 ・教育相談体制が整っている。 ■課題 ・将来、世界で活躍するリーダーを育成する。 ・部活動の充実を図る一方、休養日、学習時間を確保する。 ・課題のある生徒への支援を適切に行う。	1 外部講師の活用や海外プログラムへの参加を積極的に進める。	①大学、研究機関などから講師を招き出張講義を複数回開催する。 ②英語プレゼンテーション学習や海外プログラムの情報提供を行い、参加を促す。	①魅力的な内容の出張講義を開催し、生徒の知的好奇心を刺激できたか。 ②海外プログラム等への参加者数が昨年度(63名)以上になったか。	①SSH出張講義では、満足度4段階で平均3.6以上、その他の講義においても感想から生徒の知的好奇心を刺激できた。 ②英語プレゼンテーションでは80名、海外研修では16名の生徒が参加し積極的であった。	A	■次年度への課題 志を育て、幅広い教養を身に付けさせるため、出張講義への参加者数をさらに増やす。 ■改善策 出張講義の内容・時期を工夫・改善する。	■重点目標2「人格の陶冶」の各評価項目について、達成度の評価は適切である。 ■部活動や学校行事についてとても積極的に活動している。活動の満足度や達成感等をデータとして出せたらよいと思う。 ■人権・寛容等を大切にできるのが人格の陶冶だと考える。重点目標の一つである「人格の陶冶」がよくできている。 ■学校全体として清掃が良くできている。 ■学習への躓きやメンタル面で支援が必要な生徒への支援体制がよくできている。 ■「世界で活躍するリーダー」という表現ではなく、「様々な分野で活躍する」が良い。
		2 土日の部活動は原則半日を徹底するとともに短時間で充実した活動を行う。	関係組織で連携し、問題点の共有と具体的な改善策を検討する。	問題点の共通認識が図れ、改善策の検討ができたか。	部活動に係る活動方針(基本方針、指導体制の整備、休養日等)の検討を進め、活発な意見交換を経て活動方針を作成できた。	A	■次年度への課題 各顧問が「部活動に係る活動方針」の趣旨を理解し、効果的な指導計画を実施できるか。 ■改善策 管理職・顧問等から聞き取りを行う。	
		3 保護者、学校、外部専門機関が連携し、適切な生徒支援を行う。	思春期に様々な課題を抱える生徒を支えるよう、保護者、学校、外部専門機関との連携をとり対応する。	保護者との信頼関係のもと、保護者、学校、外部専門機関と連携し、生徒支援が行えたか。	各学年の教員間で、情報の共有と共通理解を図ることができた。また、課題のある生徒については、保護者、教員間の連携を密にし、必要に応じて学校カウンセラーを活用しながら、丁寧な生徒支援ができた。	A	■次年度への課題 一部の生徒は、学習面、精神面などで支援が必要である。 ■改善策 担任等による生徒観察・早期対応	
3	■現状 SSH指定を生かし、小学校、中学校、大学等と積極的な連携を図り、特色ある教育活動を展開し、積極的に広報している。 ■課題 ・本校の良さをさらに情報発信する。 ・地域への貢献を継続する。	1 本校の特色ある教育活動を広報・公開する。特に部活動のページの更新を積極的に行う。	①学校説明会を通じて広報を積極的に行う。 ②各分掌・委員会・部活動・学年と密に情報交換を行い、更新を促す呼びかけを適宜行う。	①学校説明会への参加人数増加やアンケートで肯定的な意見が多数得られたか。また、保護者アンケート結果で昨年度(9割)以上の評価が得られたか。 ②HP更新の回数が昨年度(209回)より増加したか。	①学校説明会の参加者数は621人(昨年度656人)でやや減少した。また、保護者アンケート結果では昨年度同様に9割以上の肯定的な評価が得られた。 ②HP更新回数は239回(2月1日現在)で昨年度以上の更新を行い、本校の特色ある教育活動を広報・公開することができた。	A	■次年度への課題 部活動のページがより一層更新される対策を検討する必要がある。 ■改善策 担当する部活動顧問へHP更新の働きかけをさらに積極的に行う。	■重点目標3「開かれた学校づくり」の各評価項目について、達成度の評価は適切である。
		2 市内の小中学校への学習支援等を行い地域に貢献する。	小中学生対象の補充学習支援ボランティアについて、教務部等主導で企画立案、実施する。	本校生、小中学生双方にとって有意義な活動となり、地域へ貢献できたか。	中央小学校へ138名、仙波小学校へ56名、富士見中学校へ63名、南古谷中学校へ52名の学習ボランティアを派遣し、双方にとって有意義な地域貢献ができた。中央小学校への科学クラブ支援も昨年度同様に行った。	A	■次年度への課題 今年度と同様に参加人数を確保する。 ■改善策 部活動顧問、小中学校と早期に連携しながら年間計画を位置付けて実施する。	